

小諸市

観光地域づくりビジョン

「観光地域づくりビジョン検討会」で策定、市長へ答申されました

市では、平成25年度より「観光地域づくりビジョン検討会」を設置し、市民団体や民間企業から代表者が集まり、観光面から小諸の地域づくりをしていくにはどうすべきか議論を重ねてきました。

そして、その内容をまとめた「観光地域づくりビジョン」を策定し、2月16日に市長へ答申しました。

議論の中で、将来の人口減少が確実なことを踏まえ、小諸という地域を子ども、孫の世代へ引き継いでいくためには、一人ひとりの小諸に対する「郷土愛」が最も大切であり、地域を維持、形成していく原動力となることが再確認されました。言い換えれば「郷土愛」が無ければ小諸は衰退し、消滅してしまうことが懸念されます。

ここでは、小諸が今後も生き残っていくために議論してきた内容をご紹介します。



そもそも、「観光地域づくり」とは？

観光事業者や公共団体のみによる観光地としての発展をめざすのではなく、住民が観光を使って楽しく地域づくりに取り組み、住民にとっても観光交流客にとっても魅力ある、「住んでよし、訪れてよし」の地域を維持、形成していくことです。

※観光交流客…ビジネスや近親者の訪問等も含めて、観光に限らず何らかの理由により来訪されるお客様のこと。



「観光地域づくりビジョン検討会」での議論概要

小諸の地域風土、文化、資源

《歴史・文化》

小諸城址、北国街道を中心とした歴史あるまち並みや商都文化、島崎藤村をはじめとする文芸の文化

《自然体感アクティビティ》

浅間山、高峰高原を舞台にした山岳観光、浅間山の噴火により生み出された地形的資源

《自然と生活文化の共存》

全域に広がる農業文化、千曲川からのめぐみで育まれてきた風土や生活文化、自然景観

小諸の観光の実態と課題

- ・観光に関するビジョン、方向性が定まっていない
 - ・市民団体、各種組織の連携が希薄
 - ・住民の郷土愛の低下により、観光交流客に対する受け入れ文化、おもてなし意識が不十分
 - ・歴史的、文化的など観光施設のインフラ整備、また多様な関係者が参画する滞在プログラムが不備
 - ・観光地域づくりを推進する舵取り役がない
- 等々

【議論に参加された団体】 小諸商工会議所、こもろ観光ガイド協会、小諸青年会議所、JA佐久浅間、地産地消推進協議会、小諸ホテル旅館業組合、本町区まちづくり推進協議会、小諸相生町商店街振興組合、こもろはす倶楽部、(一社)小諸フィルムコミッション、NPO法人こもろの杜、NPO法人こもろ情報ひろば、NPO法人小諸町並み研究会、東日本旅客鉄道(株)、しなの鉄道(株)、小諸タクシー協会、JRバス関東(株)、(一社)ヤルダ兄弟舎、小諸市観光協会